

上方修正銘柄に絞り、株主など需給面に注目する



今回の達人
長島和弘さん
株式評論家

PROFILE
大手証券会社、大手建設会社の上場支援業務を経て、投資顧問会社で投資家向けのレポートなどを執筆。現在、日本インタビュー新聞社IR企画室室長および株式評論家として、証券雑誌や新聞などに執筆。講演会などで活躍中。



私だけの**四季報** 120%活用法

銘柄をピックアップするうえでよく用いるのが、オール投資の四季報先取り号に掲載される「経常利益上方修正率ランキング」。特に1位の銘柄を中心にチェックしている。旧聞で恐縮だが、9月15日号掲載分だと、**中央電気工業**(5566)がそれだ。

まずはこのように注目銘柄を絞り込んでから、四季報でさまざまな数字をチェックしていく。その中でも、私が特に注目しているのが、需給関係である。

たとえば株主構成を見て、外国人投資家や投資信託の保有比率がゼロの銘柄は問題外。ただし外国人比率の高低の意味は、その時の相場動向で変わる。昨今のように、株式市場が世界的に弱気の時、外国人比率が高い銘柄ほど、その売り圧力が押されるおそれがある。地合いが弱い時は、むしろ外国人比率の低い銘柄のほうが、下値は固い。

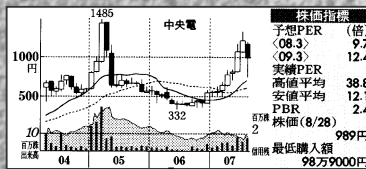
また、日証金や大証金が株主構成の上位に入ってきているような銘柄にも注意が必要

だ。この手の銘柄は、往々にして個人の信用買いがシコった結果である可能性が高い。いずれ売り圧力となって跳ね返ってくるおそれがあるのだ。

同社の株主の顔ぶれを見ると、住友系企業がずらり。日本郵政の西川社長が住友銀行出身だったことから、郵貯マネーが住友系に多く入るとの観測もささやかれた。

また、資本異動欄には、公募価格が掲載されている。中央電気工業の場合だと、1989年12月に1327円で360万株の公募増資を行っている。月足を見ると、2005年には公募増資の株価を超えているため、目先のシコリ玉は無くなった。高値からの調整も十分に行われており、もう一段の上げ余地があると見ることができる。

こうした需給関係以外では、有利子負債の額なども注目しておくといい。特に金利上昇局面では、キャッシュフロー欄、現金同等物が豊富なキャッシュリッチな会社が目立っているところだ。



年月【資本異動】	株主】%	前100株	【株主】	新
61. 5	株:11	600	住友金業工業	808(29.3)
70. 12	株:10	1,200	住友商事	297(10.7)
74. 12	株:11	2,400	日本証券金融	128(4.6)
89. 12	株:360	2,760	三井住友海上火災	120(4.3)
	株主持分	11,488	住友生命	60(2.1)
	株主持分比率	44.2%	日本マスター信託	54(1.9)
	資本金	3,630	住友生命保険	43(1.5)
	利益剰余金	4,802	住友管理信託	34(1.2)
	有利子負債	5,600	前京澤火災	28(1.0)
	【財務】	【#07.3】	アイズ	25(0.9)
	ROE	9.4%	【#07.3】	【#07.3】
	ROA	4.2%	【#07.3】	【#07.3】
	調整1株益	2,609	【#07.3】	【#07.3】
	最高純益	1,638	【#07.3】	【#07.3】
	設備投資	641	【#07.3】	【#07.3】
	減価償却	149	【#07.3】	【#07.3】
	研究開発	547	【#07.3】	【#07.3】
	【キャッシュフロー】	【#07.3】	【#07.3】	【#07.3】
	営業CF	2,622	【#07.3】	【#07.3】
	営業CF	-1,702	【#07.3】	【#07.3】
	財務CF	+189	【#07.3】	【#07.3】
	現金増減	3,643	【#07.3】	【#07.3】

ポイント3 【チャート】月足チャートで過去の値動きをチェック。高値をうまく抜けていけば、しこりがなくなると判断できる。資本異動欄を併せてチェックし、公募価格などを上回っていれば、目先の節目は抜けたものと判断できる。

ポイント1 【株主】特定株比率が50%以上の銘柄に注目。その他、外国人や投信の持ち株比率がゼロ%の銘柄は、何らかの理由があって投資していないケースが多いので要注意。

ポイント2 【コメント】前号と今号の書かれている内容を比較してみる。改めて四季報に書かれている内容があれば、その材料に注目すること。この銘柄の場合、ハイブリッド自動車为好材料といえる。